

最近話題となっている病害虫

東京都病害虫防除所 菅原 優司

Erysiphe elevata によるブルーベリー類うどんこ病
学名：*Erysiphe elevata* (Burrill) U.Braun & S.Takamatsu

2020 年 5 月～9 月にかけて、都内各地の露地及び一部の施設栽培のブルーベリーほ場において、葉の表や裏面に赤褐色の斑点が多数生じ、時に、斑点上やその周囲に白色菌糸を形成する症状が確認された。り病葉を法政大学植物医科学センターに送付して病原菌の同定を依頼した結果、*Erysiphe elevata* と結論づけた。本病は、2019 年 6 月に長崎県から国内で初めて確認され、その後、静岡県、群馬県でも報告されている。

■病徴及び形態

葉の表面では退緑あるいは赤褐色斑、裏面では赤～茶褐色斑を多数生じ、両面に薄い白色粉状の菌叢を形成するが、閉子のう殻は確認されていない (図 1)。



図 1 葉に生じた症状 (上：表面、下：裏面)

また、一部の葉では、湾曲などの奇形症状が見られる (図 2)。

本病による早期落葉等は見られず、果実や枝への発生は確認されていない。

現在までに本病の発生が確認されている品種は、ラビットアイ系のウイトウ、ウッダード、オンスロー、コロンブス、ティフブルー、フェスティバル、ブライトウェル及びホームベルであり、ハイブッシュ系では確認されていない。

分生子柄は表在菌糸から生じ、円筒形で 22.5



図 2 赤褐色斑上の薄い白色粉状の菌叢と葉の湾曲

～83×6～11μm、単生で根元が曲がり、基底に隔壁を有した。第一次分生子は楕円形または倒卵形 23～33×13～19μm、第二次分生子は倒卵形～円筒形及び樽形で 21～46×10～17μm、両分生子とも発芽管は Pseudoidium 型、付着器は拳状である (図 3)。



図 3 発生したうどんこ病菌の形態的特徴
(左：分生子柄、右：第一次分生子、Bar: 10μm)
(画像提供：法政大学植物医科学センター)

■防除対策

本病害に対する登録農薬は、還元澱粉糖化物と限られているため、薬剤散布による防除とともに、伝染源となる発病株のり病葉及び剪定枝は、ほ場外へ持ち出して埋却するなど適正に処分することが重要である。

参考文献：

- 森岡花梨・中島賢・米阪英晃・中島千晴・富田有理・久保田まや・副島康義・廣岡裕史 (2021) *Erysiphe elevata* によるブルーベリーうどんこ病 (新称) の発生. 日植病報 87(3): 209 (講要).
- 長崎県病害虫防除所 (2020) 令和 2 年度 (2020 年度) 病害虫発生予察特殊報第 1 号.
- 東京都病害虫防除所 (2020) 令和 2 年度 (2020 年度) 病害虫発生予察特殊報第 2 号.